

昭和十年度

時局匡救醫療救護實施概況

内務省衛生局

国立保健医療科学院蔵書

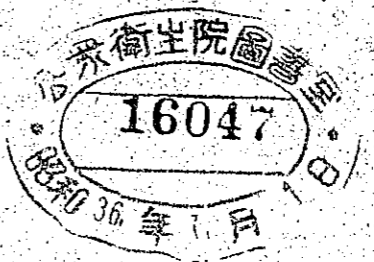


\*10012046\*

36 7 1  
塚原政繁氏

P-B  
P1010  
3

P-D  
P-20  
3



# 昭和十年度時局匡救醫療救護實施概況

## 目次

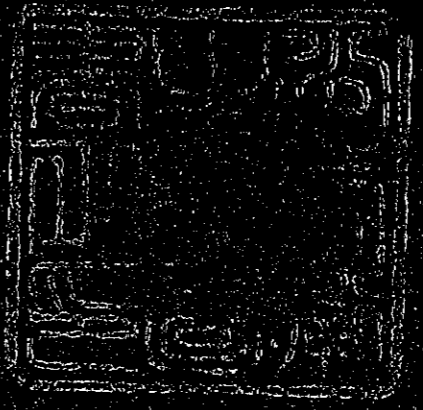
第一	實施狀況	1
第二	本年度ニ於ケル醫療救護費	2
	一、國費配當額	2
	二、道府縣支出豫算額	3
第三	醫療救護成績總括	4
	一、診療施設別患者數及治療日數	4
	二、醫療救護取扱患者性別年齡別	7
	三、本施設ニ於テ取扱ハシメテ疾病	7
第四	道府縣ニ於ケル醫療救護實施概況	14
	北海道	14
	大 阪 府	15
	長 崎 縣	17
	群 馬 縣	18
	東 京 府	19
	神 奈 川 縣	20
	新 潟 縣	21
	千 葉 縣	22
	兵 庫 府	23
	岡 山 縣	24
	茨 城 縣	25

P-B 16047  
 P AB10  
 3

# 昭和十年度時局匡救醫療救護實施概況

## 目次

第一	實施狀況	一頁
第二	本年度ニ於ケル醫療救護費	二
	一、國費配當額	二
	二、道府縣支出豫算額	三
第三	醫療救護成績總括	四
	一、診療施設別患者數及治療日數	四
	二、醫療救護取扱患者性別年齢別	六
	三、本施設ニ於テ取扱ハレタル疾病	七
第四	道府縣ニ於ケル醫療救護實施概況	一〇
	北海道	一〇
	東 京 府	一三
	神 奈 川 縣	一五
	兵 庫 縣	一六
	京 都 府	一四
	大 阪 府	一五
	新 潟 縣	一九
	茨 城 縣	一三
	長 崎 縣	一七
	千 葉 縣	一三
	群 馬 縣	一三



栃木縣	……	二四	奈良縣	……	二七	三重縣	……	二六
愛知縣	……	二九	靜岡縣	……	三三	山梨縣	……	三三
滋賀縣	……	三〇	岐阜縣	……	三五	長野縣	……	三五
宮城縣	……	三七	福島縣	……	三九	岩手縣	……	四〇
青森縣	……	四〇	山形縣	……	四三	秋田縣	……	四四
福井縣	……	四二	石川縣	……	四六	富山縣	……	四五
鳥取縣	……	四五	島根縣	……	四八	岡山縣	……	四五
廣島縣	……	五〇	山口縣	……	五二	和歌山縣	……	五三
徳島縣	……	五二	香川縣	……	五三	愛媛縣	……	五三
高知縣	……	五三	福岡縣	……	五三	大分縣	……	五三
佐賀縣	……	五三	熊本縣	……	五三	宮崎縣	……	五三
鹿兒島縣	……	五三	沖繩縣	……	五三			

### 第五 醫療救護ニ關スル諸表

- 第一表 醫療救護取扱患者數及治療日數
- 第二表 醫療救護取扱患者年齢別
- 第三表 醫療救護取扱患者病類別

## 時局匡救醫療救護實施概況

### 第一 實施狀況

昭和七年度ヨリ施行セラレタル時局匡救醫療救護ハ當初三ケ年ノ豫定ヲ以テ實施セルモ、經濟界ノ狀況ハ未ダ著シキ改善ヲ見ザルノミナラズ、各地方ニ諸種ノ災害頻發シ、爲メニ要救療者ノ階級ニ顛落スル者ソノ數ヲ減ズルニ至ラザルニ、卒然臨時醫療救護ヲ打切ルコトハ、到底不可能ト認メラル、ヲ以テ昭和十年度ニ於テモ國費百八十萬圓ヲ以テ醫療救護ヲ實施シタリ。實施ノ方法ハ前年度時局匡救醫療救護ト同一ノ方針ニ依リ都市タルト農山漁村タルト問ハズ、貧困ノ爲メ醫療ヲ受クル能ハザル者ニ對シ醫療救護ノ充實ヲ期シタリ。

道府縣ニ於テモ既往ノ經驗ニ基キ、其ノ施設ハ益々整備充實ヲ見、本事業ノ趣旨ノ徹底スルニ隨ヒテ漏救濫救ノ弊モ殆ド矯ムルヲ得タリ。殊ニ災害著シキ地方ニアリテハ夫々適切緊要ナル方法ヲ講ジテ救療上遺憾ナカラシメンコトヲ努メタリ。

本事業ノ實施ニ當リテハ可成既設ノ醫療機關ヲ利用シ、財團恩賜濟生會其ノ他ノ醫療並ニ救療團體ノ活動協力ニ俟テタリ。從テ救護ハ委託診療ニ依ルモノ多ク、然ラザル場合ニハ地方ノ狀況ニ應ジ出張診療或ハ巡回診療等適當ノ方法ヲ採レリ。

道府縣ニ於テハ地方ノ實情ニ即シ事業ヲ道府縣自ラ行フモノアリ、財團恩賜濟生會ヲ通ジテ行フモノアリ、兩者ヲ併セ行フモノアリト雖、ソノ方法ノ何レタルヲ論ゼズ、委託・出張・巡回ノ三者ヲ適宜按配シテ行ヒタリ。

委託診療ニ於テハ地方醫師會、地方齒科醫師會等ト連絡協調シテ開業醫師ニ診療ヲ委託シ、道府縣ハ救療券ヲ發行シ之ヲ市町村又ハ警察署等ニ配布セリ。市町村又ハ警察署ニ於テハ多クハ要救療者名簿ヲ作製シ必要ナル患者ニ右救療券ヲ交付シ患者ハ自ラ開業醫師ヲ選擇シテソノ診療ヲ受ク。入院手術等ヲ要スルモノニ對シテハ夫々特別診療券ヲ發給シテ治療上遺憾ナキヲ期

シタリ。又二三地方ニアリテハ開眼手術等ヲ施シ盲人救護ニモ當リタリ。出張診療ニアリテハ開業醫師ナキ町村ニ對シ隣接町村ノ醫師ヲ出張セシメ一定ノ日時(多クハ一ヶ月五、六回)ヲ定メ診療ニ従事セシメタリ。巡回診療ハ開業醫師ナキ遠隔僻陋ノ地ニ對スル施設ニシテ多クハ府縣直接之ヲ行ヒ診療班ヲ組織シテ一ヶ月數回日時ヲ定メ一定村落ヲ巡回シ診療ヲ行ヒタリ。本事業ハ長クモ 皇室ヨリ特別ノ恩召ヲ以テ下賜アラセラレタル御内帑金ヲ中心トシテ施設セラレタル時局匡救醫療救護ニ端ヲ發シタルモノニシテ、市町村當局者初メ各種醫療機關方面委員等ノ熱心ナル協力ニ依リ其ノ成績ハ極メテ顯著ニシテ國民一般ヨリ多大ノ感謝ヲ受ケ、其ノ生活安定ニ將、思想善導ニ甚ダ良好ナル影響ヲ與ヘタリ。

### 第二 本年度ニ於ケル醫療救護費

#### 一、國費配當額

國費ハ從前通り上半期及下半期ノ二期ニ分チテ配當シタリ。配當ニ當リテハ要救護者ノ分布、醫療機關ノ有無、農山漁村ノ狀勢等ニ深甚ナル考慮ヲ拂ヒ、且道府縣ノ希望ニ基キ道府縣ニ於テ直接行フ施設ト 恩賜濟生會ヲ通ジテ行フ施設トニ區別シテ左表ノ如ク之ヲ交付セリ。

國庫支出ノ醫療救護費配當區分 (△印ハ舊東京市ノ分)

道府縣	恩賜濟生會ヲ通ジテ配當シタル額	府縣直接配當シタル額	計
北海道			
東北道			
関東道			
東海			
大坂府			
京都府			
神奈川			
兵庫	5,400		5,400
長崎	2,600		2,600
新潟	3,200		3,200
埼玉	1,900		1,900
群馬	5,200		5,200
山梨	2,600		2,600
静岡			
愛知			
三重			
岐阜			
長野			
富山			
石川			
福井			
秋田			
山形			
青森			
岩手			
宮城			
福島			
茨城			
栃木			
群馬			
千葉			
合計	24,800		24,800

道府縣	恩賜濟生會ヲ通ジテ配當シタル額	府縣直接配當シタル額	計
京都府			
大阪府			
兵庫県			
徳島			
香川			
愛媛			
高知			
福岡			
大分			
佐賀			
熊本			
鹿島			
宮崎			
鹿児島			
沖縄			
合計			

#### 二、道府縣支出豫算額

本事業ニ對シ道府縣費ヲ釀出シ國費ト合シテ、其ノ充實ヲ期シタル地方尠カラズ。昭和十年度ニ於ケル豫算額ヲ示セバ左ノ如シ。

廳府縣	金額	廳府縣	金額	廳府縣	金額
北海道	六、〇〇〇	靜岡縣	四、五〇〇 <small>四</small>	岡山縣	一、八三七 <small>四</small>
東北道	二、八三九	山梨縣	一、二五六	廣島縣	一七、七〇〇
関東道	三、二〇〇	滋賀縣	二〇、〇〇〇	山口縣	五、〇〇〇
中部道	五、五〇〇	長野縣	三、八〇〇	徳島縣	二、〇〇〇
近畿道	二、〇六八	福井縣	四、〇九九	香川縣	三二、〇八五
北陸道	七、三七六	青森縣	四、四〇〇	愛媛縣	一八、〇〇〇
新潟縣	五、〇〇〇	岩手縣	二、〇〇〇	高知縣	三、〇〇〇
石川縣	一〇、一五〇	宮城縣	一、七一一	福岡縣	一、五〇〇
福井縣	五、七五〇	石川縣	二、〇〇〇	佐賀縣	一、五〇〇
越前縣	三、〇〇〇	福井縣	二、〇〇〇	熊本縣	一、五〇〇
富山縣	二、一〇〇	秋田縣	二、〇〇〇	鹿兒島縣	一、五〇〇
金澤縣	一、一〇〇	山形縣	二、〇〇〇	鹿兒島縣	一、五〇〇
愛知縣	二、六、四三七	島根縣	一、七一一	鹿兒島縣	一、五〇〇
三重縣	一、三、〇三二	島根縣	一、七一一	鹿兒島縣	一、五〇〇
三浦縣	二、六、四三七	島根縣	一、七一一	鹿兒島縣	一、五〇〇
合計	二五六、八七七	合計	二五六、八七七	合計	二五六、八七七

### 第三 醫療救護成績總括

#### 一、診療施設別患者數及治療日數

本年度ニ於ケル醫療救護取扱患者ノ總數ハ七十萬四千七百九十人ニシテ其ノ治療延日數八百七十六萬四千五百五十四日ニ達シ、

患者一人ニ對スル治療日數平均十二日四分ニ當レリ。

右ノ内道府縣ニ於テ直接行ヒタル施設ニヨル診療患者實數三十五萬三千四百七十三人ニシテ、恩賜財團濟生會ヲ通ジテ行ヒタル施設ニヨル患者實數ハ三十五萬一千三百七十七人ヲ算ス。

施設別ニヨル患者診療數ヲ見ルニ委託診療ニヨルモノハ總計三十二萬九千三百五十三人、出張診療ニヨルモノハ總計十二萬八千三百二十九人、巡回診療ニヨルモノハ總計十七萬七千七百一人、其他ニヨルモノ即チ地方ノ實情ニ應ジ助産救急箱或ハ治療上必要ナル榮養品ノ配給等ヲ行ヒタル數ハ總計六萬九千四百七十七人ニ及ベリ。道府縣ニテ直接行ヒタル施設ニ於テハ委託診療ニヨル患者數十萬九千九百一人、出張診療ニヨルモノ九萬七千五百五十六人、巡回診療ニヨルモノ十三萬六千九百人、其他ニヨルモノ九千九百十六人ニシテ、恩賜財團濟生會ヲ通ジテ行ヒタル施設ニ於テハ委託診療ニヨル患者數二十二萬二百五十二人、出張診療ニヨルモノ三萬七百七十三人、巡回診療ニヨルモノ四萬八百一人、其他ニヨルモノ五萬九千四百九十一人ナリ。

今總患者數ニ就テ外來・往診及入院別患者數ヲ觀ルニ、外來患者ハ六十四萬五千六百九十九人、其ノ治療日數ハ七百七十七萬七千九百九十九日、患者一人當リ平均治療日數ハ十二日〇分、往診患者ハ四萬二千九百五十九人、其ノ治療日數ハ六十萬四千六百六十五日、患者一人當リ平均治療日數ハ十四日一分、更ニ入院患者ハ一萬六千三百三十二人、其ノ治療日數三十八萬九千九百十日、患者一人當リ平均治療日數十二日四分ニ當レリ。

昭和十年度ニ於ケル醫療救護取扱患者數及治療日數ハ左表ニ示セルガ如シ。此ノ道府縣別調ハ別ニ醫療救護ニ關スル諸表ニ揭示セリ。

昭和十年度醫療救護取扱患者數及治療日數

種別	道府縣ニテ直接行ヒタル施設		財團濟生會ヲ通ジテ行ヒタル施設		總計		平均一患者ノ治療日數
	患者數	治療日數	患者數	治療日數	患者數	治療日數	
委託診療	入院	八、七六六	一、八八二	一、〇〇〇	二、八八二	四、〇〇〇	一六四
	往診	一、五八〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	五、〇〇〇	一六二
	外來	四、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	一六〇
出張診療	往診	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	一六〇
	外來	六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	八、〇〇〇	一六〇
	計	七、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一六〇
巡回診療	往診	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	一六〇
	外來	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一六〇
	計	四、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	七、〇〇〇	一六〇
其他	入院	九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	一六〇
	往診	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一六〇
	外來	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一六〇
合計	入院	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	一六〇
	往診	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一六〇
	外來	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一六〇

二、醫療救護取扱患者性別年齢別

本救療ニヨル取扱患者總數七十萬四千七百九十人ノ内男子ハ三十四萬八千六百五十二人、女子ハ三十五萬六千三百三十八人ニシテ、二十歳以上ノ年齢級ニ於テハ何レモ女子ニ於テ二十歳未満ノ年齢級ニ於テハ何レモ男子ニ於テ受診者多シ。而シテ三十歳

以上ノ年齢級ニ於テハ三十歳未満ノ者ニ比シテ醫療救護ヲ受ケタル者ノ數多キヲ認メタリ。

昭和十年度醫療救護取扱患者年齢別

年齢	男		女		計	年齢	男		女		計
	患者數	治療日數	患者數	治療日數			患者數	治療日數	患者數	治療日數	
一歳未満	八、六五九	七、八三七	一六、四九六	三〇歳以上四十歳未満	四三、四五五	五二、一二二	九五、五七七				
一歳以上五歳未満	三六、八四〇	三四、一五四	七〇、九九四	四十歳以上五十歳未満	四四、八〇一	四七、八四八	九二、六四九				
五歳以上十歳未満	三四、三二三	三三、〇六〇	六六、三八三	五十歳以上六十歳未満	四〇、九二九	四二、三三〇	八三、二四九				
十歳以上十五歳未満	三四、六〇六	三二、六四二	六七、二四八	六十歳以上	三九、一八三	四一、七九六	八〇、九七九				
十五歳以上二十歳未満	二五、六〇六	二三、八八三	四九、四八九	合計	三四八、六五二	三五六、一三八	七〇四、七九〇				
二十歳以上三十歳未満	四〇、二五〇	四一、四七六	八一、七二六	合計	三四八、六五二	三五六、一三八	七〇四、七九〇				

三、本施設ニ於テ取扱ハレタル疾病

本年度中ニ取扱ハレタル疾病ヲ、現行内閣訓令第二號ニ依ル死因及疾病分類中概ネ大分類ニ依リ受療患者數ヲ併記スレバ左ノ如シ

疾病分類	患者數	疾病分類	患者數
一、流行性感胃	一九、八〇八	三、レウマチス性疾患榮養障礙内分泌ノ疾患其他ノ全身病	三二、三一〇
結核	三二、一五一	四、血液及造血臓器ノ疾患	二、六一三
梅毒	七、四六八	五、アルコール中毒及其他ノ慢性中毒	六九一
其他ノ傳染病及寄生蟲病	二五、九一五	六、眼、耳及其ノ附屬器ノ疾患	九六、二二二
癌其ノ他ノ腫瘍	九、二一四	其他ノ神経系及感覺器ノ疾患	四七、六一四

疾病分類	患者數	疾病分類	患者數
七、血行器ノ疾患	二七、一五七	一二、皮膚及皮下結締組織ノ疾患	四〇、六〇六
八、氣管支炎	四三、二四七	一三、骨及運動器ノ疾患	一二、八三八
肋膜炎	一八、四二四	一四、先天性畸形	一八一
其ノ他ノ呼吸器ノ疾患	六六、二六三	一五、乳兒固有ノ疾患	八二八
九、胃及十二指腸ノ潰瘍	一五、六〇五	一六、老衰	二、六二七
下痢腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	二四、一二〇	一七、外因死	一七、四一〇
其ノ他ノ消化器ノ疾患	一〇四、四八二	一八、不明ノ診断及不詳ノ原因	二一、四〇三
一〇、泌尿生殖器ノ疾患	二八、一三六	一九、産	三、四三九
一一、妊娠及産ニヨル疾患	四、〇二八		

備考 産ハ疾病分類中ニナキモ、便宜上一類ヲ設ケタリ。

尚、前記「死因及疾病分類」中、中分類ニヨリ、受療患者數順ニ列擧スレバ左ノ如シ

順位	中分類	疾病分類	受療患者數
一	37	眼耳及其ノ附屬器ノ疾患	九六、二一二
二	58	其ノ他ノ消化器ノ疾患	九一、〇一五
三	50	其ノ他ノ呼吸器ノ疾患(結核性ヲ除ク)	五二、三五〇
四	47	氣管支炎	四三、二四七
五	71	皮膚及皮下結締組織ノ疾患	四〇、六〇六
一	36	其ノ他ノ神經系ノ疾患	三七、〇五八
二	11	呼吸器ノ結核(氣管及氣管支ノ淋巴腺ヲ含ム)	二四、〇六五
三	53	下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	二四、一二〇
四	85	不明ノ診断及不詳ノ原因	二一、四〇三
五	8	流行性感胃	一九、八〇八

順位	中分類	疾病分類	受療患者數
一	49	肋膜炎	一八、四二四
二	81	不慮ノ傷害	一七、二四二
三	51	胃及十二指腸ノ潰瘍	一五、六〇五
四	48	肺炎	一三、九一三
五	72	骨及運動器ノ疾患(結核性及レウマチス性ヲ除ク)	一二、八三八
六	50	腎臓炎	一一、三四四
七	21	慢性レウマチス及痛風	一〇、六〇二
八	16	寄生原蟲及寄生蠅蟲(ヘルミンテス)ニヨル疾患	一〇、〇八九
九	23	ビタミン欠亡症	九、四九一
一〇	65	生殖器ノ疾患(花柳病性ヲ除ク)	八、六二二
一一	12	其ノ他ノ結核	八、〇八六
一二	20	急性關節レウマチス	七、八一三
一三	13	微毒	七、四六八
一四	40	慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜ノ障碍	六、九四一
一五	17	其ノ他ノ傳染病及寄生蟲病	六、四〇一
一六	52	下痢及腸炎(二歳未満)	五、七六四
一七	46	其ノ他ノ血行器ノ疾患	五、六九八
一八	45	動脈硬化(冠狀動脈ヲ除ク)及壞疽	五、五四八
一九	43	其ノ他ノ心臓ノ疾患	五、三二一
二〇	6	百日咳	五、一四〇
二一	18	痛其ノ他ノ悪性腫瘍	四、九〇七
二二	32	腦出血、腦栓塞及腦血栓	四、八二八
二三	19	良性腫瘍及悪性良性ノ別不明ノ腫瘍	四、三〇七
二四	80	産	三、四三九
一	62	膀胱ノ疾患(腫瘍ヲ除ク)	三五、二二七
二	57	其ノ他ノ肝臓及膽道ノ疾患(膽石ヲ含ム)	三〇、五五七
三	54	蟲様突起炎	二七、七三四
四	25	其ノ他ノ全身病	二六、二二七
五	78	老衰	二二、五五八
六	63	尿道ノ疾患	二二、二五九
七	4	麻疹	二〇、五五四
八	26	貧血	一九、九二三
九	31	脊髄癆(進行性運動失調)	一八、八九七
一〇	60	其ノ他ノ腎臓、腎盂及輸尿管ノ疾患(妊娠ニヨルモノヲ除ク)	一七、五七八
一一	70	其ノ他ノ産ニヨル疾患	一六、三一一
一二	30	肋膜炎(結核性ヲ除ク)	一五、二六八
一三	41	心筋ノ疾患(心臓ノ動脈瘻ヲ含ム)	一四、二五四
一四	39	急性心臓内膜炎	一三、一三三
一五	55	脱腸及腸管閉塞	一一、二二九
一六	66	妊娠中ノ不慮ノ障碍	一一、一四
一七	34	早發性痛果其ノ他ノ精神病	一〇、四〇
一八	22	糖尿病	八、二九
一九	35	癩病	七、五九
二〇	56	肝硬變	六、四一
二一	24	甲状腺及副甲状腺ノ疾患	五、六七
二二	9	赤痢及疫痢	五、六六
二三	29	其ノ他ノ慢性中毒	五、五九
二四	27	白血病其ノ他ノ血液及造血臓器ノ疾患	五、五九



順位	中分類	病類	受療患者數	順位	中分類	病類	受療患者數
五九	33	麻痺性癱瘓	五四九	七三	61	排尿道ノ結石	一七三
六〇	67	産ニヨル出血	五一六	七四	82	自殺、他殺、不慮ノ傷害ノ別不明ノ外因死	一五六
六一	08	産褥熱	五一六	七五	15	マラリア	一二九
六二	7	デブテリア	四七七	七六	28	アルコール中毒	一二五
六三	42	冠狀動脈ノ疾患及狭心症	四四八	七七	75	早産(一歳未満)	一二四
六四	14	膿毒症及敗血症(産ニヨルモノヲ除ク)	四三一	七八	5	猩紅熱	七二
六五	38	心膜炎	四二〇	七九	76	分娩ニヨル産兒ノ障礙(三箇月未満)	六八
六六	1	腸チフス及パラチフス	三三七	八〇	3	痘瘡	一三
六七	74	先天性弱質(一歳未満)	三三一	八一	79	自殺	九
六八	64	掃腹腺ノ疾患	三〇六	八二	80	他殺	三
六九	77	其ノ他ノ幼若乳兒固有ノ疾患(三箇月未満)	三〇五	八三	2	發疹チフス	
七〇	69	妊娠中毒(蛋白尿子痲等)	二八九	八四	10	ベスト	
七一	44	動脈瘤(心臓ノ動脈ヲ除ク)	二五九	八五	83	飛傷死	
七二	73	先天性畸形	一八一	八六	84	刑死	

### 第四 道府縣ニ於ケル醫療救護實施概況

道府縣ヨリノ報告概況左ノ如シ

北海道

#### 實施ノ概況

本道ニ於ケル農漁村ハ過去數年ニ亘リ未曾有ノ凶作、凶漁ニ依リ困窮ノ状態ニアリタルニ拘ラズ本年度ニ於テ更ニ是ヲ繰返シ

加フルニ一般經濟界ノ不況益々深刻化シ本道農漁山村ノ疲弊ソノ極ニ達シ要醫療救護者モ逐年増加シツ、アリ。從ツテ本事業ニ依ル救療費モ不足ヲ告ゲントスル狀況ナリシガ努メテ濫救ヲ防止シ節約ニ努メタル處ナリシガ救療人員國費救療費ニヨルモノ實人員二二、三八五人延人員二八九、七五一人普通救療費ニヨルモノ實人員一一、六〇三人延人員三一七、五七一人ノ救療ヲ爲シ所期ノ効果ヲ收メタリ。之ガ實施狀況左ノ如シ。

診療方法ニ關シテハ内務省ニ於テ指示セラレタル委託診療、出張診療及巡回診療ノ外常備藥配給、助産衛生材料配給等ヲ實施セリ。

#### 一、委託診療

地方在住ノ醫師、齒科醫師等ニ依頼シテ可及的廣範圍ニ委託診療ヲ爲セリ。

#### 二、出張診療

最寄醫師迄二里以上ニシテ交通不便ナル爲委託診療ヲ爲シ得ザル部落ニ對シ最寄醫師ヲシテ月二回乃至三回出張診療ニ當ラシメタリ。

#### 三、巡回診療

本道ハ醫師ノ分布狀況偏在的ニシテ窮乏セル部落ノ大部分ハ醫師ノ居住ナク且ツ交通不便ナル部落ニシテ委託診療、出張診療ノ方法ニヨリ難キ部落ニ對シ昭和十年十一月以降三回ニ亘リ施行シ、實人員一一、四〇〇人延人員七九、八〇〇人ノ診療ヲ爲シ好成績ヲ收メタリ。

#### 四、常備藥配給

交通全ク不備ニシテ且戸數少ナク前記方法ニ依リ難キ部落ニ對シ常備藥ヲ配給シ置キ恩賜金救療委員ヲシテ無料分與ヲ爲サシメタリ。

#### 五、助産衛生材料配給

貧困家庭ニ在ル妊婦ニ對シ助産ニ要スル衛生材料ヲ無料ヲ以テ配給セリ。

東京府

### 實施ノ概況

昭和十年度醫療救護費トシテ國庫配當金五五、三三五圓之ニ府補助金六、〇〇〇圓ヲ加ヘ總計六一、三三五圓ヲ以テ前年度同様財團濟生會ヲ通ジテ本事業ヲ繼續セリ。

右豫算額ハ九年度ニ比シ約三割四分減ナルヲ以テ委託、巡回、出張ノ各診療ノ内容ニ於テ前年度通りノ實施ヲ許サズ、然モ要救療者數ニ於テ些ノ減少ヲ見ザル現狀ナルヲ以テ、茲ニ實施上一蹉跌ヲ生ジ之ガ増額ニ考慮ヲ拂ヒシモ實現ニ至ラズ、減額ノ儘實施スルノ止ムナキニ至リシハ頗ル遺憾トセル處ナリ。

サレド昭和七年十月ヨリ昨十年度ニ亘ル過去二年半ニ亘ル恩賜醫療救護ノ實施經驗ニ基キ、事務費ハ出來得ル限り節約シテ之ヲ醫療費ニ向ケ、救療方面ニ於テハ濫救漏救ノ弊ニ陥ルコトヲ矯正シ、投藥往診入院等ニ於テモ效果的ニ終始セシコトハ本年度實施上最モ特記スベキ事項ナリトス。

之ガ爲メ、各關係方面トハ各々協調ヲ計レリ。就中府醫師會、府齒科醫師會、府藥劑師會ニ對シテハ圓滿ナル協調ヲ遂ゲ(治療券代値上ノ希望アリシモ前年度同様一枚(二日分)二十五錢トナス)或ハ十年八月十三日市(八王子)區町村長(島嶼ヲ除ク)打合會ヲ開催シ、種々協議ヲ爲シ圓滿ナル本事業ノ達成ヲ期セリ。

最近ノ調査ニ依ルモ本府下ニ於ケル醫療ノ救護ヲ要スル所謂要救療者數ハ實ニ八十五萬ニ達シ内九六%ハ東京市内ニ住居シ殘リ四%ハ郡部及島嶼住民ノ狀態ナリ。從ツテ本府ニ於ケル實施ノ方法モ前年度ト同一ノ方針ニ基キ東京市内ニ於ケル貧困ノ爲メ醫療ヲ受クル能ハザル者ニ救療ヲ行フト共ニ八王子、三多摩郡、島嶼(大島、八丈島、小笠原島、各管内)ニ於ケル無告ノ貧民ニ對シ醫療救護ヲナセリ。

### 其ノ他特記スベキ事項

一、鴻大ニシテ無窮ナル皇室ノ御仁德ニヨリ三ヶ年ノ繼續事業トシテ實施セラレタル恩賜醫療救護ハ昭和十年三月好成绩ヲ以テ終了セシガ翌十年度ハ如何ニ成リ行クナラント醫藥ノ途ナキ無告ノ窮民ハ頗ル之ヲ不安トシ過去ノ有難サヲ感謝スルト共ニ尙將來ノ繼續ヲ希ヒ或ハ陳情書ヲ提出シテ今後此ノ施設ヲ繼續セラレンコトヲ請願スルナド枚擧ニ違ナキ有様ナリシガ國家ハ本事業ノ中止ヲ許サザル今日ノ世相ニ鑑ミ十年度モ尙繼續スルコト、ナリシヲ以テ醫藥ノ資ナキ窮民ハ愁眉ヲ開キ互ニ幸福ヲ喜ビ合ヘリ蓋シ國家ハ時局匡救醫療救護ノ施設ニ關スル御沙汰書ニ依ル聖旨ヲ奉戴繼承セル所以ニシテ彌々皇恩ノ鴻大ナルヲ感謝セザルハナシ。

二、次ノ一文ハ恩賜醫療救護實施當初巡回診療班ニ從事シタル黒澤醫務囑託ノ回顧録ノ一節ナリ。

一 小曾木村の丘陵で櫟の葉が覆ひかぶさつた下に藁ぶき家が壊れて横ざまになつてほとんど倒れんばかりの中心を失つた小屋の中に横はる病人がある。五十九歳のいけといふ。八疊敷位の板間である。板の間も凹凸不平だ。この間を汚れたつぎはぎの白木綿の巾着い布で二疊敷程しきつてある。其の中に病人が哀しげに臥てゐる。顔もはつきり見えぬ程うす暗いのである。じめ／＼した薄べらな敷物に垢づんだ枕。つねに陽のめ入らぬ北側の部屋である。何となく異臭さへも感ずる。訊ねても私が誰であるかは眼に映らない。視力も悪い。痛々しくも寝つれた姿である。五燭の燈が淋しげにともつてゐる。眼病はもとよりだが眼の悪いなどはとんと氣にかけぬ。腹の病氣を苦しんでゐる。數十日間臥てゐるが醫者に一度診て貰つたといふ。一度診て貰つたのも近所の人々が集會してお互に費用を持ち出して醫者を招ぶのだ。二度と招べぬ。一日か二日分の服を拜んだいけだ。醫者も二度と診にも來ぬ悲惨な狀況である。生活苦と病苦と哀しき鬨争を演ずる同胞の爲めに暗涙に咽ぶのである。素と相應の産があつたが二度の火災と相續者の關係から産を失ひ現在娘の手で糊口を凌ぐといふ。恩賜の診療に浴して快癒を祈つた。激勵の言を述べた。病者は熱い涙で感謝した。

村々の病む人をよくみとりせん、くすしの道にたづさはる身は。

巡回診療班設置ノ當初ハ各村何レモ斯クノ如ク哀ムベキ狀態ニシテ相當資力アルモノト雖モ、重病入ニアラザレバ容易ニ醫

師ヲ迎ヘザル様ナルヲ以テ細民ニ至リテハ殆ンド醫師ノ診察ヲ受ケ得ザルナリ。  
サレド四ケ年ノ巡回診療ニヨリ之等無告ノ窮民モ早期診療ノ恩澤ヲ蒙リ、早ク健康ヲ回復スルト共ニ、醫療機關ノ設置ノ必要ヲ痛切ニ感ゼラレ衛生思想モ著シク向上ノ途ヲ辿レリ。

從來巡回診療ノ診療箇所ハ専ラ村役場、學校、寺院等ヲ使用セラレタルモ最近ニ至リ診療所ヲ新築セルモノ三ケ村アリ。  
一ケ所ハ三菱會社ノ寄附ニカ、ル内務省ノ補助ヲ受ケシモノニシテ、他ノ二ケ所ハ村内有志ノ寄附ニ依ルモノナリ。  
前者ハ醫療救護ヲ離レ自力ニヨル診療ヲ開始スル計畫ヲ樹テタリ。  
斯クノ如ク巡回診療ニヨリ衛生思想ノ向上ト共ニ醫療問題ニ關心ヲ持ツノ傾向ナルヲ以テ、更ニ一步ヲ進メ國或ハ府ニ於テ相當ノ補助ヲナシ之ヲ勸奨スルトキハ無醫町村モ漸次自力ヲ以テ醫療機關ヲ設置シ國民生活ノ安定ノ一タル醫療國策ノ確立ノ實現モ亦遠キニアラザルベキヲ信ズ。

京都府

實施ノ概況

本施設ニ關シテハ昭和七年十月之ヲ實施以來同一方針ヲ以テ京都市ヲ除ク二百三十ケ町村ニ亘リ疾病ノ爲窮迫セル者ノ救療費全額ヲ支給スルコト、シ、且ツ村内ニ開業醫ナク又其ノ出張診療所ノ設ケモナキノミナラズ、醫師トノ距離一里以上ヲ隔ツル二十九ケ町村ニ對シテハ隣接町村ノ醫師ヲシテ出張診療ヲナサシメテ其ノ出張手當ヲ支給スル等ノ方法ヲ以テ疲弊困憊セル農山漁村醫療保護ノ徹底ヲ期シ來レリ。  
尙昭和八年度ニハ急患者ノ發生シタル場合ヲ考慮シ醫師ノ來ル迄ノ救急手當用トシテ救療箱ヲ各出張診療所ニ常備シ更ニ之ガ缺陷ヲ補フコト、シタリ。之等ノ施設ノ齎シタル成績ガ如何ニ良好ナリシカハ言ヲ俟タザレドモ、御下賜金ハ昭和九年度迄ニテ全部拜受濟ミトナリ政府ノ補助金モ減額サル、ニ至リシヲ以テ昭和十年度ニハ出張診療所十二ケ所ニ減ジ之ガ缺陷ヲ補正スル爲救急用救療箱ノ制度ヲ擴張シ醫師ナキ六十四ケ村ニ之ヲ交付スルコト、シタリ。此ノ救療箱ニ常備スル藥品材料ニ就テ

ハ社會課員竝ニ衛生課員ヲシテ協議ヲ遂ゲシメ京都府藥劑師會ノ選定セル賣藥及救急用材料ヲ備付クルコト、シ救護法ニ依ル醫療保護<sup>恩賜</sup>濟生會<sup>財團</sup>竝ニ赤十字社京都支部ノ救療事業ト相俟ツテ農村民ニ對スル救療ニ關シ萬遺漏ナキヲ期シツ、アリ。

大阪府

實施ノ概況

昭和十年度ニ於ケル醫療救護事業ハ左ノ通り國費ノ配當ヲ受ケタルヲ以テ之ヲ主タル財源トシテ農山漁村ニ於ケル救療ヲ實施セリ

記

<sup>恩賜</sup>濟生會大阪府ニ委託ノ分

國費 三四、四一七圓

日本赤十字社大阪支部ニ委託ノ分

國費 一〇、八〇〇圓

而シテ之ガ實施ニ當リテハ府下二十二ケ所ニ出張診療所ヲ設置シ<sup>恩賜</sup>濟生會大阪府ニ於テ四班、日本赤十字社大阪支部ニ於テ三班計七班ノ診療班ヲシテ毎週二回各診療所ニ出張診療セシムル外ニ<sup>恩賜</sup>濟生會ニ於テハ地方開業醫ヘ診療委託シテ救療ノ徹底ニ努メタリ。然レドモ府下僻陬ノ地區ニ於テハ猶救療ノ徹底ニ遺憾ノ點尠カラザルニ鑑ミ昭和十年六月ヨリ日本赤十字社大阪支部委託診療班三班ヲ二班ニ減ジテ更ニ巡回診療班二班ヲ編成シテ府下町村長會ノ答申ニ基キ主トシテ僻陬町村ニ之ヲ派遣シ一週二回同一場所ニ十回ノ巡回診療ヲ行ヒ救療網ノ擴充ニ努メタル結果昭和十年度ニ於ケル巡回診療ノ成績ハ巡回町村五十二ケ町村救療實人員七、〇二二人、延人員一〇一、四七七人ヲ算シ之ニ前記定置診療班ノ成績ヲ加算スル時ハ實人員一四、八七〇延人員四〇八、九二三人ニ達シ何レモ皇恩ノ鴻大ニ感泣シツ、アリ。

神奈川県

實施ノ概況

本縣内市町村ニ對シ醫療券ヲ發行シ之ガ診療ハ神奈川縣醫師會ヲ通ジテ各開業醫ニ委託シ或ハ<sup>恩賜</sup>財團濟生會本部診療機關ニ委託シテ委託診療ヲ施行スルト共ニ醫師ニ不便ナル町村ニ對シテハ隣接町村居住ノ醫師ヲ囑託出張セシメ又自動車ニ依ル巡回診療班ヲ以テ醫師不在僻陬町村ニ對シ巡回診療ヲ施行シ又市町村ニ助産券ヲ發行シ之ガ助産ハ神奈川縣聯合產婆會ヲ通ジテ各開業產婆ニ委託シ特ニ產婆不在町村ニシテ不便ト認メラル、町村ニ對シテハ產婆ヲ派遣駐在セシムル等事業ノ完璧ヲ期シ又一面市町村長、町村事務取扱者並社會委員等ヲ會合シ又ハ社會事業ニ關スル協議會、講習會其ノ他ノ集會ヲ利用シテ醫療救護事業ノ徹底ヲ圖リ救療上遺憾ナキ様事業ヲ執行セリ。

兵庫縣

實施ノ概況

- 一、巡回診療  
衛生技師、衛生技手各一名宛ヲ以テ組織シタル巡回診療班二班ヲ編成シ、醫師無キ町村又ハ醫療普及完カラザル町村中ヨリ十七箇町村ヲ選ビ毎月二回以上巡回診療ヲ行フ。
- 二、簡易診療所出張診療  
簡易診療所ヲ醫師無キ四箇村ニ設置シ、各診療所ヲシテ所在地隣接數箇町村ヲ毎月五回乃至十回宛巡回診療セシム。  
簡易診療所ハ衛生技師藥局員各一名宛ヲ以テ組織シ簡易診療所總受持町村數ハ十九箇町村ナリ。
- 三、囑託醫出張診療  
醫師無キ町村及醫療普及セザル町村中ノ二十箇町村ニ對シ近接町村在住醫師ヲ囑託シテ定期的ニ五日乃至七日毎ニ出張診療セシム。

(囑託醫二十名)

四、一般委託診療

醫師在住スル市町村ニ對シテハ公私立病院、開業醫師ニ委託シテ診療ヲ爲サシメ又必要ニ應ジテ開局藥劑師ニ委託投藥セシム。  
尙縣立懷仁病院ハ巡回診療班ヲ組織シ醫師無キ町村又ハ醫療普及ノ完カラザル地方ノ住民ニ對シ巡回診療ヲ行ヒ醫療救護ト協力シテ救療ノ普及貫徹ヲ期シツ、アリ。

長崎縣

實施ノ概況

昭和七年度ヨリ引續キ恩賜診療施主體ハ縣トシ御下賜金並國庫配當金ヲ縣費ニ收入シ恩賜診療ニ關スル訓令及恩賜診療要綱同取扱手續ニ依リ本事業ノ遂行ニ努力シ市町村警察官吏方面委員及區長醫師齒科醫師產婆等ヲ督勵シ本件實施上萬遺憾ナキヲ期シタリ。

備考

昭和十年度ニ於ケル救療費ハ國庫配當金二八、八八二、七九圓之ニ縣費二、〇六二、九五圓ヲ加ヘ計三〇、九四五、七四圓ナリ昭和十一年度ニ於テハ國庫配當金上半期八、七八二、〇〇圓之ニ縣費一、九六八圓ヲ加ヘ計一〇、七五〇圓ヲ以テ本事業ヲ繼續シ居レリ現在出張診療所十一ヶ所ナリ。

其ノ他特記スベキ事項

地方民ニ及ボシタル影響

本診療事業ガ恩賜ニ基ク救療ナルヲ以テ之ガ恩澤ニ浴シタル者ハ聖恩ノ無窮ニ感泣シ特ニ出張診療所ヲ設置シタル僻陬村ハ從來病魔ノ胃スコトアルモ醫療ノ途ナキ爲天命ヲ全フスルコト能ハズ醫療ヲ受ケムトセバ醫師一回ノ往診ニ數十圓ヲ要シタル爲直ニ貧困ニ陥ルガ如キ悲惨ナル事態尠ナカラザリシガ之等僻陬地ニ出張所ヲ設置シタル爲要救療者ハ勿論一般村民モ皇恩ノ厚

キニ感泣シ居レリ。

挿話、佳話、美談等トモ稱スベキ一二ノ事例ヲ舉グレバ次ノ如シ。

佐世保市折〇〇

宮 〇 〇 マ 〇 〇

(五十四歳)

右ハ花賣ヲ爲シ家族四名ノ生計ヲ維持セルニ長女ス〇子(十歳)乳嘴突起炎ニテ三ヶ月餘ニ亘リ恩賜ノ醫療ヲ受ケ全治シタルモノニシテ同人ハ受療中終始之ニ感激シ御陰ヲ以テ自己ノ生業ニモ充分精勵スルコトヲ得タリトテ佐世保市社會課ニ花束ヲ持參シ謝意ヲ表シタリ。

佐世保市上〇町

磯 〇 〇 朝 〇 〇

(二十四歳)

右ハ店員ヲ爲シ母ト共ニ生計ヲ營ミタルモノナルガ肺炎ニ罹リ療養中左側膿胸ヲ併發シ全ク重症ニ陥リタルヲ恩賜ノ醫療ヲ以テ手術ヲ受ケ入院五ヶ月ニ亘リ全治シタルモノニシテ同人ハ本診療ニヨリ九死ニ一生ヲ得母子共ニ感泣シ奉公ノ誠ヲ誓ヒツ、退院シタリ現在ニ於テハ健康以前ニ増シ再ビ店員トシ益々業務ニ精勵シ感謝ノ日ヲ送リツ、アリ

南松浦郡大濱村増〇〇

戸主脇〇市〇郎妻 脇 〇 〇 キ 〇 〇

(四十八歳)

右ハ神經性頭痛ニ罹リ時ニ劇甚ナル頭痛アリ背部ニ放散シ常ニ病床ニアリ(無資産ニシテ辛ジテ生計ヲ營ム赤貧洗フガ如キ状態ナリ)全ク醫療ヲ受ケル日ナク昭和十年二月三日ヨリ診療醫楠本實男氏ノ往診(約二里ノ山家)並ニ高貴藥ヲ以テ治療ヲ受

ケ同十年六月十日全治シタルモノニシテ本人ハ深ク此ノ恩典ニ感激シ居ルモノナリ。

新潟縣

實施ノ概況

本年度事業實施ニ方リテハ豫算關係等ヲ考慮シ救療ノ對象ハ從來同様「各市町村ニ於ケル特別税戸數割一戸平均額五分ノ一以下ノ賦課ヲ受クル者及生活特ニ困難ナル者」ナルモ濫救ヲ慎ミ眞ノ貧困者ニ限り救療スル方針ヲ採リ市町村長ニ對シ此ノ趣旨ヲ通達シタル外縣下數ヶ所ニ開催セラレタル方面委員會議ノ際ニ於テモ救療團體又ハ救療機關ト聯絡協調ヲ密ニスルト共ニ其ノ活動ヲ促スベキ旨指示ヲ爲ス等救療上萬全ヲ期シタルモ後半期ニ入りテハ降雪意外ニ早く且ツ幾十年來稀有ノ豪雪トナリ各地交通杜絶、雪崩等頻發シタル爲醫療上幾多支障ヲ來シタルモノアリシハ遺憾トスル所ナリ

今各種別概況ヲ摘記セバ左ノ如シ。

一、委託診療

縣内ニ於ケル公私立病院、縣醫師會員、縣齒科醫師會員及縣藥劑師會員ニ診療又ハ調劑ヲ委託シ其ノ料金ハ醫師會、藥劑會トノ協定額ニ依リ縣ヨリ支拂フモノニシテ之ガ實施方法ハ縣下四百二市町村ノ内出張診療實施村ヲ除キタル爾餘市町村ニ對シ甲種醫療券ニ依ル醫療費豫算ヲ配當シ其ノ範圍内ニ於テ市町村長ヨリ該醫療券ヲ交付セシメ又乙種醫療券ハ市町村長ノ具申ニ依リ縣ヨリ之ヲ交付シ繼續治療ヲ受ケシムルモノトス。

二、出張診療

醫師ノ居住ナク且ツ交通不便ニシテ最モ醫藥ニ恵マレザル別記僻陬村ニ對シテハ前年ニ引續キ實施シ毎月四回宛囑託醫及看護婦ヲ派遣診療ニ從事セシメ診療後ハ投藥ヲ爲シ得ル樣藥品ヲ設備ス。  
尙現在委託診療實施町村ノ内醫師居住地迄遠距離又ハ道路險惡等ノ爲醫療券ヲ利用シ得ザル部落(相當戸數アルモノ)ヲ選ビ七月ヨリ四ヶ月間ニ亘リ三十八ヶ所ニ臨時出張診療ヲ實施シタルニ利用者頗ル多ク多大ノ効果ヲ收メタリ。

以上ノ外縣廳及所屬各麻職員等ノ釀出シタル凶作義捐金ノ一部ヲ以テ醫療救護ヲ實施スルコト、ナリ縣ノ施設ト相俟テ各所ニ出張診療ニ依リ多數ノ貧困患者ヲ救護セリ。

三、家庭常備藥配給

農山漁村ニ於ケル救急用藥品ノ配給ハ最モ感謝セラル、所ナルヲ以テ本年度ニ在リテモ醫師又ハ診療所ヨリ遠隔ノ部落内ノ貧困家庭ニ對シ醫療救護ノ一端トシテ實藥十數種ヲ組合セ百十ヶ町村三千八百三十餘戸分ヲ配給ス。

其ノ他特記スベキ事項

本事業ハ倍々其ノ重要性ヲ認識セラレタル處臨時施設ノ關係上何時打切ラル、ヤ計リ難ク不安ニ堪ヘザル爲恒人的施設トセラレンコト要望ノ聲旺ナリ。

埼玉縣

實施ノ概況

一、農山村巡回診療

イ、縣内開業醫ナキ一三一ヶ村中委託診療ニ依リ難キ僻陬村二十八ヶ村ヲ選定シ之ヲ四班ニ分テ每週一回巡回診療ヲナス。

ロ、嘱託醫師看護婦各一名ヲ以テ組織ス。

ハ、巡回村數並診療時間

- 第一班 七ヶ村
- 第二班 八ヶ村
- 第三班 六ヶ村
- 第四班 七ヶ村

毎日午前九時ヨリ午後三時迄トス但シ一日二ヶ處ノ場合ハ午前九時ヨリ十二時迄午後一時ヨリ午後四時迄トス。

實人員 一八、八九八 延人員 二二九、九九三

二、委託診療

イ、縣内開業醫師アル二三二ヶ市町村並醫師ナキ村ニ對シテモ最寄ノ醫師ヲ利用スル趣旨ニ基キ委託診療トシ恩賜濟生會治療券ヲ發行シツ、アリ。

實人員 一二、六〇八 延人員 一七九、八六七

ロ、醫師ニ遠隔ノ地ニシテ容易ニ醫師ヲ招ク能ハズ又恩賜濟生會治療券或ハ巡回診療醫等ヲ利用シ得ザル山間部七〇ヶ所ヲ選定シ救急藥ヲ常備シ之ヲ服藥セシメツ、アリ。

實人員 二九八 延人員 一、五七五

群馬縣

實施ノ概況

昭和十年年度醫療救護ニ關シテハ國庫配當金三萬六千二百四十七圓、縣費五千圓其ノ他九百八十圓七十六錢合計金四萬二千二百二十七圓七十六錢ヲ以テ縣下醫療普及ノ狀況ヲ考慮シ恩賜救療規程ニ依リ左記施設ヲ以テ之ガ救護ヲ實施セリ。

一、救療施設

1 巡回診療班

豫算二萬一千六百五十一圓ヲ以テ診療班二班ヲ組織シ醫師ノ開業セザル農山村中特ニ醫療困難ト認ムル十六ヶ町村ニ對シ定期的ニ自動車ヲ以テ巡回シ診療投藥ヲ行ヒ若ハ處方箋ヲ交付シテ其ノ投藥ヲ縣藥劑師會員ニ委託セリ。  
一班一日ノ患者取扱數ハ四十名乃至九十名ニシテ昭和十年年度ニ於テハ延十六萬餘人ヲ救濟セリ。  
各診療班ノ組織ハ醫師一名藥劑師一名書記一名看護婦一名ヨリ成ル。

2 委託診療

豫算一萬七千八百七十七圓ヲ以テ委託診療、出張診療、助産ヲ行ヘリ。

イ、委託診療

治療券ヲ發行シ市町村長、警察署長、區長、方面委員等ノ手ヲ經テ要救療者ニ交付シ其ノ診療ヲ各郡市醫師會員ニ委託シ入院、手術、治療、投藥ヲナシ縣下至ル所ノ醫療ノ途ナキ者ニ就テ之ガ醫療救濟ニ努メリ。

昭和十年度ハ治療券一萬五千枚ヲ發行患者延四萬八千餘人ヲ救濟セリ。

ロ、出張診療

農山村中醫師開業セズ醫療困難ナルモ附近町村ニ開業醫アリ之ヲ出張セシメテ治療ヲ行ハシムレバ足ル地方ノ八ヶ村ニ對シ縣醫師會ト契約ヲナシ月五回其ノ所屬郡醫師會員ヲ出張セシムル方法ヲ以テ醫療ノ徹底ヲ期セリ。

昭和十年度ハ治療券千九百枚ヲ發行患者延一萬一千八百餘人ヲ救濟セリ。

ハ、助産

產(昭和十年十月ヨリ廢止)

愛國婦人會群馬支部トノ協同事業トシテ委託診療ノ例ニ倣ヒ助産券ヲ交付シ縣下ノ產婆ニ助産ヲ委託ス。

昭和十年度ハ助産券二百枚ヲ發行妊婦四五人ノ助産ヲ實施セリ。

其ノ他特記スベキ事項

本醫療救護施設ニ依リ救濟ヒラレタル多數ノ人々ハ、聖恩ノ鴻大ナルニ感泣シツ、アルト共ニ本施設ノ永續ヲ極力希望シ居レリ。

千葉縣 實施ノ概況

從來開業醫無キ町村ニ對シ地理的不便ヲ緩和スル爲恩賜診療所五ヶ所、委託診療所六ヶ所ヲ開設事業實施シ來タリタルモ昭和十年度ニ於テハ、御下賜金御下付期間満了シ、之ガ經費ハ縣費ヲ以テ補充スルヲ要シ、殊ニ從來ノ恩賜診療所ハ、御下賜金ノ御趣旨ニ鑑ミ専ラ要救療者(貧困階級)ノミヲ取扱ノコト、シタルモ、設置町村及隣接町村ニ於テハ同診療所ニ於テ要救療者

以外ノ有料患者ノ診療ヲモ希望セル事情モ有、昭和十年度ニ於テハ右恩賜診療所ヲ委託診療所ニ改メ之等ノ實情ニ則シ更ニ一般市町村ニ對スル委託診療即チ、醫師、齒科醫師、產婆、藥劑師各會員ニ委託セル診療及投藥ハ一般ノ理解ニ依リ良好ナル成績ヲ收メツ、アリタルモ、一面本縣下ノ救療機關トシテハ、救護法ニ依ル醫療、恩賜濟生會ノ醫療其ノ他公私ノ機關錯綜シ、其ノ取扱區々ニシテ市町村ニ於ケル事務取扱上ハ勿論、救療者、被救療者ニ於テ往々誤解ヲ生ジ、爲ニ救療事業全體ノ進捗ニ影響スルコト不尠、此ノ點ニ鑑ミ昭和十年度ニ於テハ各種救療事業ノ統制機關ヲ設ケ相互ニ聯絡ヲ保チ無統制ニ依ル弊ヲ矯メ、更ニ本救療事業ト大體同様ノ救療内容ヲ持ツ<sup>恩賜</sup>濟生會ニ本事業ヲ統一シテ一切同會ノ事業トシテ實施シタリ、尙從來ハ醫科大學附屬病院ニ對シ委託ナキ爲不便ヲ感ジタル事情ニ鑑ミ、昭和十年度ハ一部同病院ニモ委託スルコト、シテ實施シタリ、以上ノ組織ニ依リ事業ヲ繼續實施ノコト、ナリタルモ財源不足ノ關係上出來得ル限リ救療範圍ヲ縮少スルニ努メ、即チ一般患者ニ對シ自力更生ヲ慫慂スルト共ニ救護法ニ該當スベキ患者ハ極力同法ニ依リ醫療ノ處置ヲ講ゼシメ、他ノ機關ニ依リ救療ヲ受ケ得ルモノニ就テハ夫々別ニ救療ノ方途ヲ講ズル等各關係者ヲ督勵シテ實施シタル結果、別表ノ通、昭和九年度ニ於テハ實人員ニ於テ五千一百七十九人、昭和十年度ニ於テハ四千五十六人トナリ一千餘人ヲ減ジ延人員ニ於テモ、昭和九年度ハ二十三萬六千九百九十七人ニ對シ十年度ハ二十萬七千九百八十一人トナリ二萬九千餘人ヲ減ジタリ。

茨城縣

實施ノ概況

醫療救護施設ニ關シテハ御聖恩ノ趣旨ヲ奉體シ左記ノ如ク慎重計畫ヲ樹テ以テ無告ノ窮民ニ御恩澤ノ均霑セシムベク銳意努力シツ、アリテ其ノ施設概要左記ノ通ナリ。

縣直接施行ノモノ

一、委託診療

傷病種類ニ依リ入院或ハ手術ヲ要スル患者ニ對シテハ特別治療券ヲ發行シ之ヲ縣下各地ノ病院、醫院ニ委託シ治療シツ、ア



リ。

二、出張診療

醫師ノ開業ナク又地理的關係ニ於テ醫療ヲ受クルコト困難ナル村落十四ヶ村ニ對シ醫師會ノ援助ヲ得テ適當ノ開業醫ヲ囑託シ毎月隔日午後一時ヨリ五時迄一ヶ月十五日間ノ出張診療所ヲ設置シ治療券ノ受給者並ニ一般患者ニ對シ醫療ノ便宜ヲ與ヘツ、アリ。

三、僻陬地診療

醫師ノ開業ナキノミナラズ土地極メテ僻陬地ニシテ交通頗ル不便ニシテ醫療ヲ受クルコト極メテ困難加フルニ出張診療所モ亦設置ノ見込ナキ村ニ對シテハ診療所ヲ設置シ專任醫師看護婦ヲ置キ貧困患者ノ救療ヲナシツ、アリ。

恩賜 濟生會茨城支部ニ於テ施行ノモノ

一、委託診療

配當ヲ受ケタル金額ヲ以テ救療券ヲ發行シ之ヲ縣下各警察署巡查駐在所、市町村役場ニ配布シ置キ警察官吏、市町村長、方面委員等ノ活動ニヨリ醫療ノ費用ニ乏シキ患者即チ市町村總戸數ノ二割乃至三割ヲ要救療者ト認メ之等ノ者ノ疾病ニ罹レル際ハ直ニ治療券ヲ交付シ救療シツ、アリ。

栃木縣

實施ノ概況

一、本縣ニ於ケル醫療救護ハ 恩賜 濟生會ヲ通ジテ委託、出張、巡回各診療ノ三方法ニ依リ行ヒ其ノ實施概況左ノ如シ。

イ、委託診療

委託診療ハ縣下全般ニ亘リ之ヲ實施ス 恩賜 濟生會ハ縣醫師會、藥劑師會、齒科醫師會、產婆會等ト治療料其ノ他ノ料金ノ協定ヲ爲シ以テ救療ニ當リ患者ハ同會ニ於テ發行ノ救療券ヲ警察署長、市町村長及方面委員常務員等ヨリ交付ヲ受ケ縣内

開業醫師、產婆、藥劑師、齒科醫師等ニ提示シ外來、往診助産又ハ投藥等ニ依リ救療ヲ爲シ特ニ重症並大手術ヲ要スル患者ニ對シテハ入院ヲ認メ救民救療ニ當リタルモノナリ。

ロ、出張診療

出張診療ハ交通不便ニシテ近接地ニ開業醫師アルモ委託診療ニ依リ救療シ難キ僻陬地ニ對シ實施ス縣醫師會ノ推薦ニ依リ開業醫師一村一名ツツ出張診療醫ニ囑託シ毎月六回宛一定ノ日時場所ニ出張シ診療セシム患者ハ 恩賜 濟生會ニ於テ發行シタル治療券ヲ警察署長又ハ村長ヨリ交付ヲ受ケ診療所ニ出頭之ヲ提示シ救療ヲ受ケシム尙救療患者以外ノ患者ニ對シテモ治療ヲ爲サシメ以テ一般患者ノ利益ヲ圖レリ。

ハ、巡回診療

巡回診療ハ醫療ノ機關ナク委託及出張診療ニ依リ救療シ難キ山村僻陬地ニ於テ開設ス醫師、藥劑師、看護婦各一名ヲ以テ組織シタル巡回診療班二班ヲ編成シ一日一ヶ村宛巡回的ニ月四、五回實施ス患者ハ 恩賜 濟生會ニ於テ發行シタル救療券ヲ警察署長並ニ村長ノ手ヲ經テ交付シ當日診療所ニ出頭之ヲ提示シ救療ヲ受ケシム各診療所ニハ藥品施術器具等ヲ備ヘ其ノ場ニ於テ投藥施術シ得ルノ方法ヲ講ジ以テ患者ノ利益ヲ圖リタルモノナリ。

其ノ他特記スベキ事項

醫療救護ニ依ル救療患者ハ何レモ無資産ニシテ他ニ療養ノ途ナク常ニ疾病傷痕ニ罹ルモ容易ニ醫療ヲ受クルコトヲ得ザルモノノミヲ救療シツ、アルモノナレバ患者並ニ其ノ家族ハ勿論一般民衆モ恩惠ノ大ナルニ感泣シツ、アリ其ノ事例二、三ヲ舉ゲルバ左ノ如シ。

安蘇郡新○村大字○馬

無業慈○母 ○ 邊 ○ ○

(當六十五年)



右者昭和十一年二月二十四日病名「トラホーム」[睫毛亂生症及角膜「パンヌス」]症ニテ既ニ右眼失明尙左眼ニ感染失明セントスル  
狀況ニテ之ガ貧困ノタメ醫療ヲ受クルノ途ナク困窮シ居リタル處本會ニ於テ發見田沼町大字戸奈良石井眼科醫方ニ二週間入院  
治療セシメタル處該病ハ全治ニ向ヒ期間後ハ外來トシテ治療セシメタル處全治セリ本人ハ勿論同家族ノ喜ビハ此ノ上モナク此  
ノ恩澤ノ鴻大ナルニ感泣シ長男憲〇ハ理髮業ナルモ不況ノ結果該營業不振全ク實母ノ眼病ニハ困窮シ居リタルモノナリ此ノ恩  
澤ニ對シ長男憲〇ハ之ガ御恩返トシテ貧困兒童ノ無料理髮ヲ爲サントシテ校長ノ了解ノ上目下小學校ノ貧困兒童無料理髮續行  
ニ邁進シツ、アリ。

那須郡須賀〇村大字須〇〇

日雇業 大 〇 〇 シ 〇

(當二十九年)

右ハ膝關節炎ノ爲メ苦痛ハ勿論日増ニ歩行困難ニ陥リシ際醫療ノ途ナク悲歎ニクレ居ル折方面委員ノ耳ニ入り  
患者トシテ約五十日加療シ今ヤ全ク全治シ歩行ハ勿論ノ事日雇業等ニ從事シ居ルノ狀況ニシテ其ノ鴻恩ニ感泣シツ、更正ノ道  
ニ邁進シツ、アリ。

下都賀郡豊〇村大字〇〇

佐 〇 〇 ヒ 〇 〇

(當六十二年)

右者曾テ眼病ヲ患ヒ盲目トナリ不治ノ病ト諦メ貧苦ニ闘ヒツ、生ケル屍ノ如ク十餘年間ヲ生活シ來リシガ昨年十月十二日下都  
賀郡栃木町役場ニ於テ盲人開眼無料診療ヲ爲ストノ旨駐在所巡査ヨリ話ヲ承リ本人ハ心密カニ喜ビ早速診療ニ應ジタル處全治  
ノ見込アリトノ診斷ニ依リ本人ハ心飛立ツバカリ嬉シク歸宅シタルモ今後開眼治療ニ付テハ定メシ自費ナルコト、思ヒ家内相  
談セシモ如何ニセン生活ニ餘裕ナキ事故及バザルモノト又モ斷念落膽シ居リシモ神ノ助ケト申スベキカ其ノ筋ヨリ  
財團 濟生會

ニ依リ一切無料ニテ入院開眼手術ヲ爲ストノ有難キ報ニ依リ本人ハ勿論家族一同喜ビ愈々十二月五日縣立宇都宮病院ニ入院十  
二月六日及一月九日二回ニ亘リ手術ヲ受ケタルモ本人ハ其後經過第一ト醫師ノ命ズルマ、ニ隨ヒ且ツ毎日ノ如ク神カケテ開眼  
スル様祈リツ、在リシ處手術後ノ十二日目ニ至リ突然病室ニ眼科部長ガ訪レ「今日ハ眼ヲ開イテ見ナサイ」ト申サレタルモ本人  
ハ其ノ瞬間心ニテハ見エル様ニ成ツタノカ又ハ見エナイノカト嬉シサト不安ノ内ニ靜カニ眼ヲ開キシニ室内急ニ夜ガ明ケタル  
ガ如ク明ルクナリ體ハ輕クナリ娘ノ笑顔サヘ見エテ本人ハ生レ變ツタ如キ心地シテ嬉シサノ餘リ手ノ舞ヒ足ノ踏ム所ヲ知ラザ  
ル狀態ニシテ唯々恩惠ノ有難サト其ノ筋並醫師ノ盡力ニ依ル賜ト思ヒ心ノ奥ヨリ感謝ノ念湧キ出ツルト共ニ嬉シ涙モ止メアヘ  
ズシテ其ノ心理筆舌ニ表ハセヌ程嬉シク退院後ハ盲目當時ヨリ思ヒ浮ベテ十餘年ノ間永イ永イ夢ヲ見タ如キ心地ニテ只々有難  
キ恩惠ノ萬分ノ一ニ報ヒ可ク本人ハ日々生業ニ精勵シツ、アリ。

下都賀郡〇生町大字〇生甲

寺 〇 〇 安 〇 〇

(大正十年七月二十五日生)

右者昭和七年頃己ニ實父母ニ死別シ弟佐〇夫及妹チ〇子ト三人暮トナリ實父母ノ死後ハ全ク其ノ生死ノ判斷モ付カザル狀態ニ  
アリ當時近隣ノ金〇宗〇之ヲ救ヒ先代ヨリ引續キ煙草小賣商並雜貨商等ヲ爲シ居リタルモ其ノ收支償ハザル狀態ニアリテ全ク  
赤貧洗フガ如キ狀態ナリ然ル處昭和十年一月中ヨリ戸主安〇ハ病氣ニ罹リ(肋膜炎)病床ニ就テヨリ金〇宗〇ハ病人ニ與ヘル  
藥代ニ窮シ全ク死ニ近キ狀態トナリタルヲ以テ方面委員等ト協議シ財團 濟生會ノ救護ヲ求ムル事トナリ同年十月八日宇都宮縣  
立病院ニ入院セシメ加療シタル結果病狀日増シニ快方ニ向ヒ入院後四週間ニシテ殆ンド全治シ退院後ハ自宅ニ於テ靜養シツ、  
煙草小賣營業等ヲ爲シ得ル狀態トナリタルニ依リ同家ノ喜ビ一方ナラズ日一日トシテ財團 濟生會ノ報恩ヲ忘ル、事ナク他ニ卒  
先シテ奉仕の事業ニ邁進シツ、アリ。

奈良縣

實施ノ概況

一、委託診療

治療券ヲ發行シ警察署長、市町村長又ハ方面委員ヲシテ本縣恩賜醫療救護規程該當ノ患者ニ交付シ醫療ニ就カシメタリ。

二、出張診療

縣下山間部ニシテ醫師常住セザル町村及醫師在住セルモ地形交通其ノ他ノ關係上醫療ヲ受クルコト特ニ困難ナル左記地方ニ昭和七年度ヨリ引續キ出張診療所ヲ開設シ診療日ヲ定メ定期ニ醫師ヲ出張セシメ診療ヲ行ヘリ。尙出張診療所設置ノ地方ニ於テハ一般村民ノ便ヲ計リ救療該當者ノ診療ニ支障ヲ來ササル範圍ニ於テ一般患者ノ診療ヲ爲サシメタリ。

三、救急函藥品ノ補充

縣下山間部ニシテ醫師又ハ診療所ニ至ルニ山路相當ノ距離ヲ隔ツル地方ニシテ一旦要急ノ患者發生セル場合醫師ニ就ク迄ノ極ク簡單ナル應急處置ヲ講ゼシメル爲縣下一五二ヶ所ニ配置シタル救急函ノ藥品補充ヲナセリ。

四、既設施療施設ニ對スル補助

既設ノ大字經營ニ係ルニ無料診療所ニ對シ利用患者ノ數ニ應ズル金額ヲ交付シテ治療ニ當ラシメタリ。

三重縣

實施ノ概況

恩賜救療事業ハ昭和九年度ヲ以テ終了セルヲ以テ本年度ヨリ三重縣救療事業ト名稱ヲ改メ本事業ヲ繼續實施スル事トナリ三重縣救療規程並三重縣救療事務取扱手續ヲ制定公布シ尙本事業ノ實施要項ニ關シ支廳長各市町村長ニ通牒ヲ發シ救療ニ遺憾ナキヲ期セリ。

一、救療範圍

傷疾疾病ニ罹リ醫療ノ資ナク公私救療ヲ受クルノ途ナキ者

之ガ範圍ハ四月一日現在（前期）十二月一日現在（後期）ニ依リ市町村長ニ於テ方面委員其他ト協議ノ上決定要救療者世帯主名簿ヲ作成一部ヲ知事宛提出セシム。

二、實施方法

イ、出張診療

醫療機關ナキ町村ニシテ救療ヲ受クルニ困難ナル地方ニ對シテハ出張診療所ヲ設置シ近接開業醫ニ委嘱シ出張診療ニ從事セシム。

1 設置町村數 二四ヶ村

2 出張回数 月八回ヲ標準トス

3 出張診療醫ハ當該村長ノ内申ニ依リ縣之ヲ囑託ス

ロ、巡回診療

醫療機關ナキ町村ニシテ交通其他ノ關係ニ依リ出張診療所ヲ設置セザル地方ニハ巡回診療班ヲ派遣ス。

1 班數 二

内一班ハ定期トシ九ヶ村ヲ一日二ヶ村宛巡回シ他ノ一班ハ必要ニ應ジ臨時ニ編成派遣ス。

2 班ノ構成 各班共醫師一名 看護婦二名 運轉手一名

3 診療範圍 要救療患者ヲ主體トスルモ尙餘裕アル場合ハ一般患者ニ對シテモ診療ヲ行フ。

但シ此場合ハ三重縣巡回診療班使用料條例ニ依リ使用料ヲ徴收ス。

ハ、委託診療

縣ト縣醫師會縣齒科醫師會、縣藥劑師會ト協定シ之等ノ會員ニ委託シ診療投藥セシム。

愛知縣

實施ノ概況

昭和十年度醫療救護事業ハ大體前年度ト同様ナル方法ニヨリ委託診療、巡回診療、救急箱ノ三種ヲ實施ス、併シテ國庫配當金ノ減額ニヨリ前年度ニ比シ巡回診療班ノミ七班ヲ六班ニ縮少シタルモ診療町村ニハ變動ナク、他ノ委託診療、救急箱施設ハ夫々寄附金縣費補助等ヨリ前年度同様實施ス、即チ委託診療ハ<sup>恩賜</sup>濟生會ニ於テ縣醫師會ト委託契約ヲ締結シ縣下全般ニ亘リ開業醫師ヲシテ貧困者ノ委託診療ヲ行ハシム、此經費五三、八一五圓取扱患者延人員八〇、二八五人ナリ、巡回診療ハ縣直營ニヨリ六班ヲ設置シ、專任醫師ヲシテ醫師ナキ町村又ハ醫療ニ不便ナル町村七十七ヶ町村ノ貧困者ノ救護ヲ計ル爲同一町村ニ一週一回定期的巡回診療ヲナス、此ノ一ケ年經費五四、〇〇〇圓取扱患者延人員四四七、三八九人ニ及ブ、委託診療、巡回診療共ニ及バザルガ如キ山間僻地五四ヶ町村二一〇ヶ所ニ對シテハ<sup>恩賜</sup>濟生會ガ愛知縣總聯合衛生會ヲシテ救急箱ヲ設置セシメ邊陲地ノ應急醫療ニ備フ、此經費四、三二五圓取扱患者延人員一〇二、六八〇人ニシテ此等救護施設ハ他ノ特殊救護並ニ既設救護施設ト相俟ツテ縣下普ク救護ノ均霑ヲ計ルト共ニ其ノ徹底ヲ期ヒリ。

今右各施設ニ付實施概況ヲ舉グレバ左ノ如シ。

- 一、巡回診療 縣直營
- イ、班 數 六班
- ロ、班ノ組織 醫師、調劑員、運轉士各專任一名
- ハ、巡回區域 醫師ナキ町村若クハ醫療ニ不便ナル町村七十七ヶ町村
- ニ、巡回方法
  - 一班ノ巡回區域ハ平均十三ヶ町村其ノ中心地ニ駐在所ヲ設ク、各班ハ診療用自動車ニ藥品醫療器具ヲ登載シ一日二、三町村ノ割合ヲ以ツテ巡回シ同一町村ニ對シテ毎週一回定期的ニ診療ヲ行フ。
- ホ、診療場所

患者ノ集合ニ便ナル土地ニ建設サレタル巡回診療班診療所若クハ役場、公會堂、集會所等ヲ之レニ當ツ。

ヘ、巡回區域中ニ於テ最モ邊陲ナル一ヶ町村ヲ特別區域トシテ開業醫ヲ囑託シ一ヶ月四回出張診療ヲ行ハシム。

二、委託診療

<sup>恩賜</sup>濟生會ヲ通ジテ行フ施設

イ、醫師會、齒科醫師會ニ對スル委託

縣ト縣醫師會トノ委託契約ニ依リ醫師會ハ所屬郡市醫師會ノ會員ヲシテ委託ニ依ル醫療ヲ行ハシメ外來ノ醫療委託料ハ日本醫師會健康保險點數計算規程ニ依リ計算シ一點ノ單價ヲ十錢トス入院料ハ一人一日八十錢ト定ム、齒科醫師會ニ對シテモ前項ニ準ジ健康保險ニ依ルモノ、概ネ五割減ヲ標準トシ委託スルモノトス

ロ、名古屋醫科大學附屬醫院ニ對スル委託

入院ヲ主トシ入院料（診斷、投藥、注射、處置等一切ノ治療費並ニ寢具、賄及其他ノ設備ノ使用ヲ含ム）一日ニ付一圓トシ平均毎日六十名ヲ委託セリ。

ハ、其他ノ委託

組合病院診療所等ノ醫療施設ニ對シテモ縣醫師會ニ對スル委託診療ニ準ジ委託契約ヲ締結ス。

三、救急箱

<sup>恩賜</sup>濟生會ヲ通ジテ行フ施設

實施ニ當リテハ愛知縣總聯合衛生會ニ於テ之ヲ行ヒ配置場所ハ區長宅、小學校、巡查駐在所、方面委員宅等トシ管理者ヲ定メ保管セシム、委託診療ハ勿論巡回診療モ及バザル邊陲地五十四ヶ町村二一〇ヶ所ニ配置ス。

其ノ他特記スベキ事項

現今社會狀勢ハ一部ニ於テハ好況ノ途上ニアルモ農山漁村ノ經濟的困窮ハ依然トシテ曙光ヲ見ズ益々醫療救護ノ擴充ヲ必要トスルハ本年度ノ實績ヨリ見ルモ明カナリ。

例ヘバ巡回診療班ハ年々其擴充ヲ期シ益々成果ヲ納メツ、アリ、巡回實施町村ニ於テモ自發的ニ町村費若クハ特志ノ寄附金等

ニヨリ相當多額ノ經費ヲ以ツテ特ニ巡回診療班ノ爲ニ診療所ヲ建設シ又其設備等ニモ意ヲ用ヒ診療ニ萬全ノ策ヲ講ズル等頗ル熱意ヲ持チ、患者ニ於テモ每週一回ノ診療ニ無限ノ感謝ト絶大ナル信賴ヲ置ク狀況ナリ、併シテ多數ノ患者ニ對シ疾病ノ早期發見治療衛生思想ノ無智ニ誘因セル罹病率ヲ減少セシメ萎靡沈潛セル農山漁村ノ細民ニ對シ更生ノ意氣ト力ヲ與ヘルコト甚大ナルモノアリ、唯ニ疾病ノ治療ニ止マラズ農山漁村更生ノ方策トシテ重大ナル一部門ヲナスモノナリ。

委託診療ニ付イテハ縣醫師會トノ圓滑ナル連絡協調ニヨリ開業醫ニ依ル委託診療ニ頗ル好成績ヲ擧ゲ又重症患者ノ爲ニ名古屋醫科大學附屬醫院ニ六十床ノ委託床ヲ常設シ治療ノ徹底ヲ圖リ救療ヲ乞フ者益々其ノ數ヲ増シ方面委員ノ活動可シキヲ得寧ロ經費豫算ノ不足ヲ見ルガ如キ狀況ナリ。

救急箱ニ付イテモ増設希望多ク又救急藥ノ需用ハ非常ニ多ク其補給ニ追ハレル狀況ナリ。

靜岡縣

實施ノ概況

農漁山村等ノ醫療救護ニ關シテハ委託診療或ハ出張診療等ニ依ツテ救療ノ徹底ヲ期シツ、アルモ、特ニ山間僻地等ハ交通經費等ノ關係ニヨリ醫師ノ診療ヲ委クルニ極メテ困難デアリ殊ニ醫師ナキ町村並醫療施設ガ山越乃至遠距離ニアル部落等ハ委託診療施設モ實際ニ於テ活用不能ノ爲其ノ恩典ニ浴スルコトサヘモ困難ナル狀態ニアリ其ノ恩典ヲ均霑セシムル爲巡回診療ノ必要ヲ痛感サレ其ノ前提トシテ巡回診療ヲ企圖シ本縣ニ於テ交通不便トセラル、安倍郡梅ヶ島村及井川村ニ實施セルニ其ノ效果ハ極メテ顯著ニシテ宏大無邊ナル聖旨ニ感激セリ。

衛生思想ノ一部份

山奥ノ狀況ハ大體部落ガ遠距離ニナル程衛生思想モ隨ツテ低級ニシテ事實亦遠距離ナル處程往診料モ高ク死ニ直面シタル時ニ始メテ醫師ノ診察ヲ受ク。斯ル思想ガ内在スル限早期診斷ハ勿論相當重態ニナルモ醫師ノ診察ヲ招應セズ、安倍郡井川村口坂本邊ニテ往診料十五圓、梅ヶ島村新田七、八圓、周智郡水窪町時原及門桁ノ如キ十五圓乃至二十二圓ノ往診料ヲ要ス、十圓位

ノ處ハ斯ル山奥ニハ珍ラシカラズ、同ジ十圓ニシテモ都會生活者ヨリ一般ニ貨幣價值ニ差異アリ、十圓以上往診料ヲ支拂フモ診斷ヲ受クルコトハ事實上困難ナリ結局病氣ニナルモ診察モセズ、ソレガ爲弱體ノ所有者死者等ガ多クナリ衛生思想ガ低級ナル爲問題ヲ重要視セズ從ツテ助ルベキ生命ヲ自ラ短縮セシム、之ガ爲巡回診察ニヨツテ衛生思想ガ啓蒙サレ、診察ニ喜ンデ應ズル中ニハ數回病氣ニハ罹ルガ生レテ始メテ醫師ノ診察ヲ受ケタリト感激シタル等巡回診察ガ衛生思想ノ普及ニ絶大ナル貢獻ヲ爲セリ。

其ノ他特記スベキ事項

巡回診察中特ニ此ノ計劃ノ爲生命拾ヒヲシタル一、二ヲ記述スレバ次ノ如シ。

イ、梅ヶ島村關之澤ニテ産後日立ガオモハシクナク尿道ガ閉塞シテ三日間一回モ放尿セズ、ソレガ爲患者ハ非常ニ苦悶シ醫師アラザル爲夫ガ消毒モセザルゴム管ニテ排尿セントスル等眞ニ危険此ノ上モナク幸巡回診察ガアリタル爲無事ニ排尿モ爲シ患者ヲ始メ家族一同ハ此ノ施設ニ感激セリ。

ロ、梅ヶ島村新田ニテ十一歳ニナル男子、骨膜炎ニテ足ノ手術ヲセネバ生命モ危険ナル緊急状態ニ置カレタル患者ヲ見出シタリ。若シ此ノ巡回診察ナカリセバ病氣ノ重要性ヲ認識セザルト經濟的困難ノ爲結局ニ於テ放任サレ生命ハ覺東ナカリシト想像サル幸ヒ病氣ヲ巡診ニヨツテ發見シタル爲早速委託診療ニヨリテ救護セルニ親達ノ喜ビハ勿論部落民ノ感謝ハ想像以上ナリ。明年度ヨリハ巡回診療ヲ定期的ニ實施シ僻地部落ノ醫療救護ニ努メ其ノ恩典ヲ均霑セシムベキ企劃中ナリ。

山梨縣

實施ノ概況

一、救療ノ範圍

市町村稅特別稅戶數割一戸當平均ノ四分ノ一以下ノ者及其ノ家族同居人又ハ右ト同程度ノ者ト市町村長ニ於テ認メ豫メ知事ノ承認ヲ受ケタルモノヲ救療セリ。